みのりステージ　マロニエプラザメインホール

開会式 10:10～10:40

主催者挨拶（概要）

農林水産大臣　鈴木 憲和



第21回食育推進全国大会の開催に当たり、日頃から食育の推進に御尽力いただいている皆様、また大会開催に御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

私に食の大切さを深く気づかせてくれたのは、生産者の皆さんをはじめ、子ども食堂で活動されている方々や、学校給食を支える栄養教諭の皆さんなど、食の現場で日々努力されている一人ひとりの存在です。東日本大震災から2か月後、福島県のお米の生産者のもとで田植えを手伝った際には、複雑な思いを抱えながらも「美味しく安全なお米を楽しみにしている消費者の皆さんに、今年も届けたい」と田植えに向き合う姿に接し、私たちの食は生産者一人ひとりの思いと努力の上に成り立っていることを改めて実感しました。

食べるということは生きるということです。食育は、食に関する知識や食を選択する力を習得し、生産者の努力や食への感謝の念を育むものでもあります。近年、食生活が大きく変化し、生産現場の実態が知られにくくなる中で、食や農林水産業への理解を深める取組がますます重要となっています。「食育基本法」の改正法の趣旨に基づき、今後5年間は、「学校等での食や農に関する学びの充実」、「健全な食生活の実現に向けた大人の食育」、「食卓と生産現場の距離を縮める取組の拡大」を重点的に進めてまいります。

全国各地で食育に取り組まれている皆様には、今後も地域における食育の輪を広げていただくことを期待しております。本大会が皆様の貴重な学びの機会となり、全国各地で食育の取組がさらに進むことを祈念し、御挨拶といたします。

みのりステージ司会進行

フリーアナウンサー
須賀 由美子 氏



きずなステージ司会進行

フリーアナウンサー
福嶋 真理子 氏



みのりステージ　マロニエプラザメインホール

主催者挨拶（概要）

栃木県知事　福田 富一



本日は全国各地から栃木県にお越しいただき、心から歓迎を申し上げます。また、本大会の開催にご尽力いただきました関係者の皆様に、深く敬意と感謝を申し上げます。

さて、本日6月6日は二十四節気の「芒種」にあたり、穀物の種をまく時期とされています。食育推進全国大会にふさわしい日に開催できますことを大変うれしく思っております。

本県は、半世紀以上にわたりいちごの生産量が日本一でございます。加えて、米、にら、梨、生乳、牛肉、鮎など、全国に誇れる多彩な農産物があります。しかし近年は、私たちの暮らしに欠かせない食と農とのつながりが見えにくくなり、食卓に並ぶ食べ物がどこでどのように作られ、届けられているのかを知る機会を知らない方も増えています。そのため、生涯にわたって健康で豊かな生活を支える食育の重要性はますます高まっております。

本大会では、食や農業がもたらす恵みに感謝する心を育むとともに、その重要性や地産地消の取組について消費者への理解促進を図るほか、関係者の連携強化につなげてまいりたいと考えております。会場では、「見る」「触れる」「味わう」など、五感を使って楽しく学べるさまざまな企画を御用意しました。県産農産物の魅力や生産者の思い、本県の豊かな食文化に触れていただき、産地とのつながりや食育の理解がさらに深まり、各家庭での食育実践の輪が広がることを期待しております。

結びに、本大会を契機として栃木から全国へ食の輪がさらに広がることを願うとともに、日光や那須など本県自慢の観光地へも足を運んでいただくことをお願い申し上げまして、開催県を代表しての開会の挨拶といたします。

来賓祝辞（概要）

衆議院議員　　簗　和生 氏



本日は、第21回食育推進全国大会が栃木県で盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。また、鈴木農林水産大臣をはじめ農林水産省の皆様、福田知事をはじめ栃木県の皆様のご尽力に敬意と感謝を申し上げるとともに、全国からお集まりいただいた関係者の皆様を歓迎いたします。

私は、自民党の「消費者の食と農の理解醸成と行動変容に向けた施策検討プロジェクトチーム」の座長として、「食育基本法」の21年ぶりの改正に携わってまいりました。食育は20年以上にわたり各地で成果を上げてきましたが、一方で食への関心の低下や栄養バランスの乱れ、簡便志向の進行、農業体験の機会格差などの課題も見えてきています。そのため、これまでの取組を検証し、より実効性の高い食育へと発展させる必要があるとの思いで法改正に取り組みました。

今回の改正は、食料・農業・農村基本法の改正における食料安全保障の明確な位置付けや、食料システム法の成立による生産から消費までのコストの見える化という流れで進めているものです。食料安全保障を支えるためには、消費者が農業現場や生産者の苦労を理解し、食のありがたみを知り、自らの消費行動を通じて国内の生産基盤を支えていくことが重要です。

今回のこの食育推進全国大会を契機として、食育が実効性を高めて、全国各地であらゆる世代に対して十分な水準で食育が実施され、我が国の食料の安定生産につながることを心から期待しております。我々はこれからも、食と農に責任を持って食育を実行していきます。皆様方には、引き続きご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

みのりステージ　マロニエプラザメインホール

来賓祝辞（概要）

参議院議員　　上野 通子 氏



本日は、第21回食育推進全国大会の開催、誠におめでとうございます。また、全国から栃木県にお越しいただいた皆様を心より歓迎申し上げます。

今回の大会は、近年、関東では開催されていなかった全国大会を栃木県で開催しようという提案から始まりました。栃木県、農林水産省をはじめ多くの関係者のご尽力により、160ものブースが並ぶ大規模な大会として開催できましたことを大変うれしく思っております。

食育の原点は、「食べることは生きること」です。私たちは動植物の命をいただき、生産者をはじめ農業に携わる皆様の力によって生かされています。そのことへの感謝を忘れず、「いただきます」「ごちそうさま」の心を大切にすることが食育の原点であります。

一方で、大人の孤食の増加や栄養バランスの問題、子どもたちの肥満や過度なダイエットによる痩せすぎなど、食をめぐる課題は数多くあります。給食の無償化や地産地消の取組が進む今だからこそ、栄養のバランスを考えながら、楽しく、おいしく食べることの大切さを改めて発信していく必要があります。

今回の大会テーマは「とちぎからつながる恵みの輪」です。この大会を通じて、食の恵みの輪を全国へ広げるとともに、人と人、地域と地域とのつながりを深め、生きることの充実感や満足感、ウェルビーイングの向上につなげていこうではありませんか。

皆様にはどうぞ今日一日楽しんでいただき、食育の大切さを改めて考え、その成果を全国へ発信していただきたいと思います。本日は誠におめでとうございます。

来賓祝辞（概要）

栃木県議会　議長　　関谷 暢之 氏



栃木県議会を代表して一言御挨拶を申し上げます。

食育推進全国大会が、ここ栃木県で盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、全国各地からお越しいただきました皆様を歓迎申し上げるとともに、本大会の開催にご尽力いただいた関係者の皆様に心から敬意と感謝を申し上げます。

私も皆様のお話を伺う中で、食育とは私たちの健康を支えるだけにとどまらず、生産に携わる方々を支え、地域の伝統や文化を未来へつないでいく取組であると思います。そして、「感謝の心」を育み、それを表現し、伝え、行動につなげていくということが食育の根本にあると感じました。

日本には食事の前の「いただきます」、そして食事の後の「ごちそうさま」という言葉があります。「いただきます」や「ごちそうさま」には、命をいただくことへの感謝、生産者や料理をしてくださる方々への感謝、さらには食材を集め、食卓へ届けてくださる全ての方々への感謝が込められています。こうした言葉の本当の意味を改めて共有し、世代を超えて受け継いでいくことこそ、食育の最も分かりやすく大切な姿の一つだと感じています。

栃木県は、いちごをはじめとする豊かな農産物に恵まれた食の宝庫です。しかし一方で、農業現場では人手不足など多くの課題にも直面しております。だからこそ、感謝の心を持って、国や地域全体で食育に取り組んでいくことが求められています。

本大会が全国の優れた実践や知見を共有し、食育の輪をさらに広げる機会となること、そして「いただきます」「ごちそうさま」という日本の食文化を象徴する言葉を未来へつないでいく契機となることを心から願っております。

結びに、本大会のご成功と、ご参会の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。本日はおめでとうございます。